

東北大学大学院歯学研究科  
インターフェイス口腔健康科学  
第86回学術フォーラム

*Forum for Interface Oral Health Science*

「お口の健康への新しいアプローチ！」

二川 浩樹 教授

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授

広島大学歯学部 副学部長

口腔健康科学専攻長、歯学部口腔健康科学科長

平成27年9月1日(火) 18:00～19:00

歯学部臨床研究棟(C棟)1階大会議室

むし菌や歯周病などのお口病の原因であるプラークは、歯の表面に形成されたバイオフィルムであり、その形成には、①口腔内のばい菌同士の相互作用、②歯の詰め物などの成分や表面の性質、③生体の反応や浸出液などの生体成分の3者の相互作用がかかわっています。最近、逆にこれらを利用してバイオフィルムの抑制を行うことを考え、色々な製品の開発をしたのでご紹介します。

モデレーター： 江草 宏(分子・再生歯科補綴学分野)  
洪 光(歯学イノベーションリエゾンセンター国際連携部門)